

大阪・関西万博（EXPO2025）

—基本方針とその取り組みの紹介—

弁護士知財ネット専務理事
弁護士 伊原 友己¹

1 日本における国際博覧会の開催実績

- (1) わが国では、これまでに1970年（昭和45年）の日本万国博覧会（大阪万博＝EXPO'70）、1975年の沖縄国際海洋博覧会（沖縄海洋博）、1985年の国際科学技術博覧会（つくば博）、1990年の国際花と緑の博覧会（花の万博）及び2005年の日本国際博覧会（愛・地球博）と5回開催されてきており、来年開催が予定されている2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博＝EXPO 2025）²で6回目となる。
- (2) とりわけ、アジア初の開催となった大阪万博（テーマは「人類の進歩と調和」）は、アメリカのパピリオンで展示された月の石と共に、岡本太郎氏デザインのシンボルタワー「太陽の塔」は有名である。また、大ヒットしたテーマソングの「世界の国からこんにちは」（作詞：島田陽子氏³、作曲：中村八大氏）⁴は、還暦を超えているリアル体験世代には耳に馴染んでおり、明るいテンポと明快な歌詞が懐かしい。日本館ではリニアモーターカーの模型も走っていたが、それが今や現実のものになってきているのも感慨深い。
- (3) これらは、分野は違ってはすべて知的財産である（「太陽の塔」は建築の著作物、テーマソングは言語の著作物＋音楽の著作物であって歌唱（実演）は著作隣接権で保護される。月面探査やリニアモーターカーなどは先端技術の塊である。）。大阪万博の会場では、近未来が体感できて、当時小学生だった筆者には、人類の未来は眩しいほど輝かしく、前途洋々であるように感じられた。



（イサム・ノグチ氏の作品「月の世界」
右手奥に「太陽の塔」の背面）⁵

1 日弁連知的財産センター平成26年度委員長、現副委員長

2 大阪・関西万博の円滑な準備及び運営に関する施策を総合的かつ集中的に推進するため、政府は「国際博覧会推進本部」を設置し、その事務局を内閣官房が担っている。https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/expo_suisin_honbu/index.html

3 一般公募されて選ばれた方である。

4 歌唱は、三波春夫氏のほか、吉永小百合氏、坂本九氏らによるものもある。

5 本稿掲載写真は、いずれも日弁連知的財産センター・ジャパンコンテンツチーム座長・松井真一弁護士の撮影による（2024©松井真一）。写真のイサム・ノグチ氏の作品のほか、同様に月をモチーフにした作品はいくつかあり、万博会期中はいずれも「天の池」に噴水の一部として設置されていたものである。月と太陽（の塔）の対称性が面白い。

2 大阪・関西万博（EXPO 2025）

(1) 大阪・関西万博の会場は1970年の大阪万博の会場ではなく、大阪湾に埋め立てて造成された人工島である夢洲（ゆめしま）である。161ヶ国・地域と9国際機関が参加を予定している⁶。そして、万博のシンボルとして予定されているのは、藤本壮介氏デザインにかかる世界最大級の本造建造物とされる円形の大屋根（リング）である。「多様でありながら、ひとつ」という大阪・関西万博の理念を表すものとされる⁷。会場で、どのようなことが体験できて、いかなる知見が得られるのかについては、参加各国・国際機関並びに企業パビリオンでの具体的な展示内容が、本稿脱稿時点においてはあまり公表されていないので良く分からない（令和6年9月17日に齋藤健経済産業大臣からわが国の南極観測で2000年11月に収集された世界最大級〔ラグビーボール大・重さ13キログラム〕の火星由来の隕石を展示する旨の発表があった。）。しかしながら、大阪・関西万博の開催意義を確認し、また公表されている政府のアクションプランなどを概観すると、おぼろげながら方向性が掴めて雰囲気を感じられるので、順を追って見ていきたい。

(2) まず、「基本方針」⁸の2頁では、下記のとおり開催することの意義が謳われている。

〔3〕大阪・関西万博の意義

1970年日本万国博覧会（大阪万博）が開催されてから半世紀が経過し、日本と世界を取り巻く環境も大きく変化した。経済発展が進む一方、少子高齢化への対応、温室効果ガスの排出削減、食料の安定供給と食品ロスの削減、富の集中や地域間格差の是正など様々な社会的課題の解決と経済発展を両立することが必要となっている。日本は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すとともに、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を踏まえ海洋プラスチックごみ対策を国際社会とともに推進することとしている。また、AIやIoT、ロボット、ビッグデータをはじめとするデジタル技術を活用して様々な社会的課題の解決と経済発展を両立させる、持続可能でインクルーシブな「Society5.0」の実現に向けて取組を進めている。これらの取組を加速するために2025年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）の機会を活用するとともに、大阪・関西万博を契機に、日本は、「課題解決先進国」として、人間一人一人がそれぞれの可能性を最大限発揮できる持続可能な社会を、国際社会と共に創ることを推し進める。」

6 令和6年6月18日時点の情報（外務省ウェブサイト〔https://www.mofa.go.jp/mofaj/ecm/ec/page22_003546.html〕）。なお、1970年の参加国等は、76カ国、国際連合ほか4つの国際機関、1つの政庁（香港）、アメリカの3つの州、カナダの3つの州、アメリカの2都市、ドイツの1都市、企業等32団体であった（万博記念公園のウェブサイト（大阪万博のページ）より〔<https://www.expo70-park.jp/cause/expo/>〕）。

7 高さ12m（外側は20m）、内径約615m。EXPO 2025大阪・関西万博公式Webサイト（<https://www.expo2025.or.jp/>）参照。日本の伝統的建築技法の「貫（ぬき）工法」（立設される柱に穴を開けて水平の梁を貫通させて組み上げる技術）が用いられている。

8 「2025年に開催される国際博覧会（大阪・関西万博）の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針について」（令和2年12月21日閣議決定）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/expo_suisin_honbu/pdf/kihonhousin_honbun.pdf

- (3) そして、基本方針の4頁には、下記の「基本的な考え方」が記されており、政府は、以下の基本的な考え方に基づき、関連施策の立案と実行に取り組むものとされている。

〔1〕「いのち輝く未来社会のデザイン」の具体化

大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマの下、「いのち」を守る、救うことに焦点を当てた『Saving Lives (いのちを救う)』、「生活」を豊かにする、可能性を広げることに焦点を当てた『Empowering Lives (いのちに力を与える)』、一人一人がつながり、コミュニティを形成する、社会を豊かにすることに焦点を当てた『Connecting Lives (いのちをつなぐ)』という3つのサブテーマを設定している。

『Saving Lives (いのちを救う)』では、公衆衛生の改善による感染症対策や防災・減災の取組による安全の確保等、『Empowering Lives (いのちに力を与える)』では、ICTを活用した質の高い遠隔教育の提供、スポーツや食を通じた健康寿命の延伸、AI・ロボティクスの活用による人間の可能性の拡張等、『Connecting Lives (いのちをつなぐ)』では、ICTによるコミュニケーションの進化、データ社会の在り方などに焦点を当てた展示等を通じてテーマの具体化に取り組む。」

- (4) これらを実現するために国際博覧会推進本部でアクションプランが策定され、大阪・関西万博に向け、あるいはその中で展開される様々な活動・取組みが示されている。

なお、「本アクションプランは、『未来社会の実験場』の具体化と、日本全国における万博メリットの享受に向け、各府省庁の現時点における目指すべき取組の概要、今後の実施方針等についてまとめたものである。引き続き、成長戦略や各分野の戦略・構想・実施計画などとも連携し、また企業や自治体の要望や具体的な検討の進捗なども踏まえて、予算措置、新たな制度設計、規制改革など必要な措置を順次講じていくこととする。今後、事業の進捗や企業等の提案を踏まえながら、少なくとも半年に1回改訂する。」とも説明されている⁹。

このアクションプランで具体的な取り組みとして打ち出されているのは、下記の①から⑦の7つの大項目であり、またそれらに含まれる事項が多数列記され、それぞれがアクションプランの個票¹⁰でさらに細目的に説明がなされている（アクションプラン（Ver.5））。目次的に以下に紹介しておくので概観されたい。

① 最先端のモビリティ技術の社会実装

- ・空飛ぶクルマの実現【経産、国交】
- ・自動運転の一層の推進【デジタル、国交、警察、総務、経産】
- ・日本のEVバスの技術・ノウハウ発信【経産、国交、環境】
- ・MaaSの推進【国交】

② カーボンニュートラルに資するエネルギー・環境関連技術の実証

- ・水素発電技術の実証【経産】
- ・アンモニア発電技術の実証【経産】
- ・合成燃料の活用拡大【経産】
- ・再エネ水素を使ったメタネーション実証【環境】

9 令和6年1月25日にそのバージョン5が公表されているところ、本文引用のとおり、半年に1回は改訂するとされているものの、本稿脱稿時点においてバージョン6は、未だ公表されていない。

10 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/expo_suisin_honbu/pdf/apver5_kohyou.pdf

- ・次世代船舶を活用した海上観光の実現【経産、国交】
 - ・次世代型太陽電池の開発推進【経産】
 - ・CO₂の分離・回収技術の実証【経産】
 - ・CO₂排出削減・固定量最大化コンクリートの実証【経産】
 - ・2030年度までに前倒しでカーボンニュートラルの達成を目指す脱炭素先行地域の実現【環境】
 - ・次世代グリーンデータセンター技術の発信【経産】
 - ・資源循環に関する実証・展示【経産】
 - ・循環に関する展示体験（日本館）【経産】
 - ・サーキュラーエコノミー及び大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現【環境】
 - ・健全な水循環に向けた国内外への発信【内閣官房（水循環）】
 - ・行動変容を促す資源循環のナッジ実証【経産】
 - ・食品ロス削減の普及啓発【消費】
 - ・食品ロス削減に向けた啓発、食品リサイクルループの形成【農水】
 - ・「ウッド・チェンジ」の発信【農水】
 - ・万博を契機としたCLT活用のさらなる推進【内閣官房、農水、国交、環境】
 - ・核融合エネルギーに関する展示【文科】
- ③ デジタル技術を駆使した展示・発信
- ・多言語翻訳技術の高度化【総務】
 - ・Beyond 5G ready ショーケースの実現【総務】
 - ・地域データの可視化によるデータ利活用の推進【内閣府（地方創生）】
 - ・デジタル田園都市国家構想に関連するデジタル実装モデルの海外発信・展開【内閣官房（デジ田）】
 - ・デジタルライフラインによるSociety5.0の実現【経産】
 - ・量子技術が切り拓く未来社会【内閣府、総務、文科、経産】
 - ・大阪・関西万博と連携したeスポーツの発信【経産】
 - ・デジタル学園祭【経産】
 - ・サイバー／フィジカル融合による新たな感覚体験の提供【国交】
 - ・デジタル技術の社会実装【経産】
 - ・視覚障害者向け自律型誘導ロボット「AIスーツケース」の実証【文科】
- ④ 健康・医療（ライフサイエンス）分野の高度な技術・サービスの発信
- ・再生・細胞医療・遺伝子治療分野の情報発信【厚労】
 - ・医療機器等における先進的研究開発・開発体制強靱化事業による体験コーナー【経産】
 - ・日本の先進的な医薬品等の情報発信【厚労】
 - ・障害者自立支援機器等開発促進【厚労】
 - ・優良なアイデア・事業の審査への参画（ヘルスケアビジネスコンテストの開催）【経産】
 - ・Personal Health Record（PHR）を活用した万博体験【経産】
 - ・介護ロボット等テクノロジーの普及【厚労】
 - ・スマート・ライフ・プロジェクト～健康寿命をのばそう！～【厚労】
 - ・認知症バリアフリーの取組推進【厚労】

・ユニバーサルヘルスカバレッジって大事だね！【厚労】

⑤ 観光・食・文化・教育・スポーツ

- ・大阪・関西万博を契機とした全国への誘客促進【内閣官房（万博）、国交】
- ・日本の国立公園の魅力発信（国立公園満喫プロジェクト）【環境】
- ・2030年ネイチャーポジティブの実現に向けて【環境】
- ・未来社会・フューチャーライフに向けた被災地の復興や人・地域の魅力の情報発信【経産、復興】
- ・日本食文化・ジビエ・農泊・農業遺産・海業の発信【農水】
- ・日本の食文化の発信【文科】
- ・日本産酒類の情報発信【財務】
- ・「日本博2.0」の展開【文科】
- ・クールジャパンの総力を結集した機運の醸成【内閣府（知財）】
- ・日本の工芸品・和楽器の対外発信【経産】
- ・日本の新たな才能を万博映像マーケットを通して発掘し世界に発信するプロジェクト【経産】
- ・映像・芸術文化が形作る被災地の魅力ある未来社会に向けた発信【経産】
- ・アイヌ文化の対外発信【内閣官房（アイヌ）】
- ・スポーツの新たな価値の創造等による多様性・可能性の追求及び「Sport in Life」の推進と障害者スポーツの振興【文科】
- ・大阪・関西万博への修学旅行等に係る情報発信について【文科】
- ・大阪・関西万博に関する「ジュニアEXPO2025」教育プログラムの周知【文科】
- ・万博国際交流プログラム【内閣官房（万博）】
- ・大阪・関西万博の成果を実装する「ポスト万博シティ」の推進【経産】
- ・日本の建築文化【文科】
- ・日本のアート発信とアートを起点とした相互交流【経産】
- ・関西発「ワザ」と「コンテンツ」の未来体感フェスティバル【経産】
- ・花き園芸文化を通じた2027年国際園芸博覧会の情報発信【農水、国交】

⑥ 最先端の科学技術の社会実装・実現

- ・人に寄り添い人をさりげなく支援する自律学習ロボットとの対話体験展示【文科】
- ・自動配送ロボットによる配送サービスの提供【経産】
- ・ロボットフレンドリーな環境の実現【経産】
- ・宇宙を通じて、いのちを感じる【内閣府（宇宙）、文科】
- ・海洋関係の取組発信【内閣府（海洋）】
- ・防災DXを活用した災害・対応情報の提供【文科】
- ・リモートセンシング技術による高精度データの収集・分析・配信技術の開発【総務】
- ・熱中症や高潮浸水の高解像度物理シミュレーションによる早期の情報提供【国交】
- ・各種警察活動における小型無人機の更なる活用【警察】
- ・ムーンショット型研究開発制度【内閣府（科技）】
- ・戦略的イノベーション創造プログラム【内閣府（科技）】
- ・「共創の場」が創る”未来のありたい社会”【文科】

- ・被災地から生まれる未来社会に向けた創造的復興 (Creative Restoration) の発信【経産、復興】
- ・スマート×グリーン技術の実証 (農業)【農水】
- ・スマート×グリーン技術の実証 (林業)【農水】
- ・スマート×グリーン技術の実証 (水産業)【農水】
- ・フードテック事業創出の推進【農水】
- ・「みどりの食料システム戦略」の実現に向けたプロジェクト【農水】
- ・知的財産の活用による社会課題解決の実現【経産】
- ・サステナブル技術普及プラットフォーム (STePP) 登録技術の展示・紹介【経産】
- ・万博会場を活用した未来思考の中小企業の魅力・価値の発信【経産】
- ・未来を創るICTスタートアップによる取組発信【総務】
- ・GlobalStartupEXPO2025【経産】

⑦ その他

- ・ウーマンズパビリオン出展事業【内閣府 (男女参画)、経産】
- ・いのち輝く未来社会「持続可能なまちづくり」の実現地方創生SDGs (日本版SDGsモデル) の国内外発信・展開【内閣府 (地方創生)】
- ・万博を契機として実施される「全国」の地方創生に資する取組を支援【内閣府 (地方創生)】
- ・テーマウィークプロジェクト【内閣官房 (万博)】
- ・外国人との共生社会の実現に向けた取組に関する情報発信【法務】
- ・環境省によるバーチャル万博での展示 (仮称)【環境】
- ・大阪・関西万博を契機としたMICEの誘致・開催の推進【国交】
- ・大阪・関西万博特別仕様ナンバープレートの普及促進【内閣官房 (万博)、国交】
- ・記念貨幣のシリーズ発行【財務】
- ・「こどもまんなか」視点での大阪・関西万博との連携【こども家庭、内閣官房 (万博)】

(5) 上記①に関して、当初、話題になっていた来場者の足となる空飛ぶタクシーの商用運行は、事業者による機体の型式認証の取得が間に合わないということで、会場でのデモンストレーション飛行にとどまるようである¹¹。今回の万博は、人類の夢と希望を展示するというよりも、現代社会の諸課題に向き合い、持続可能な社会をどのように構築していくのかという視点での「未来社会の実験場」というコンセプトも掲げられている (アクションプラン2頁参照) ので、可能な範囲で意欲的な挑戦を見せてもらいたいものである。



(アクションプランVer.5個票3ページより)

11 デモンストレーション飛行といえども、有人飛行となれば航空管制 (空の交通整理) のシステムや不測の事態が発生したときの対応策等が実用レベルで用意されている必要があるから、簡単なことではないように思われる。

(6) 上記②には、「核融合エネルギーに関する展示」が含まれている。これについては、アクションプランVer.5の個票の26頁で実施概要として「エネルギー問題と地球環境問題を同時に解決する次世代のエネルギーとして期待される核融合エネルギー（フュージョンエネルギー）の可能性を示すため、世界7極の国際協力により開発を進める核融合実験炉「ITER（イーター）」を中心に、核融合エネルギーに関して展示。」と記されている。

現在の発電技術については、石炭等の化石燃料を燃焼させる火力発電では二酸化炭素を大量に大気中に放出することになり、地球温暖化を進めてしまうことから国際的に忌避されている。また核分裂反応を利用する現在の原子力発電は高レベルの放射性廃棄物の問題が発生するところ、その解決策を人類は未だ持ち合わせていない。風力、水力、太陽光といった発電技術では発電量が気象条件によって左右され、また必要な電力量が得られないという問題がある。これに対し、核融合反応を利用する場合には二酸化炭素の排出もなく、放射性廃棄物の問題も発生しないことから、近年、国際的にも技術開発が加速してきており、わが国も大いに貢献できる分野である。早く実用レベルに到達してもらいたいものである。

(7) 上記⑤には、わが国の食文化、日本酒、工芸品についての発信や、上記⑥には農林水産業のスマート技術等やフードテック（アクションプランVer.5の個票86頁によれば、植物性タンパク質、細胞性食品、ゲノム編集食品等の技術）などにも触れられているところ、会期中にどのような展示や発表がなされるのか、期待される場所である。

(8) さらに、近時の各種報道によれば、企業パビリオンにおいても、さまざまな楽しい仕掛けが用意され、有意義な体験ができるように準備が進められているようである。

(9) 大阪・関西万博は、展示内容のほか、イベント運営上の知的財産もある。例えば、下記の公募で選ばれたキャラクターの“ミャクミャク”（デザイン）は、美術の著作物であり、その名称（アルファベット表記のものも含む）¹²や図形などは商標としても活用されるものであって、数多くの指定商品・役務について公益社団法人2025年日本国際博覧会協会から商標登録出願がされ、権利化されている¹³。



キャラクター商標
(商標登録第6656708号)



ロゴマーク商標
(商標登録第6413446号)

12 商標としては、標準文字で登録されている（登録第6651183号）。

13 東京オリンピック2020のときにロゴマークの変更を強いられたのは記憶に新しい。国際イベントのシンボルマークやロゴマーク、キャラクター等の（公募）採用にあたっては、先願、先使用の他者の類似マーク等が存在しないことをチェックする必要があるものの、全世界を対象に調査し、的確な類似性判断をすることは実際問題なかなか難しいものがある。

3 人類の未来に向けて

1970年に開催された大阪万博のシンボルである岡本太郎氏デザインの「太陽の塔」の背面には、「過去」を象徴する「黒い太陽」が描かれている¹⁴。今、その「黒い太陽」が見ている、あるいは内包している過去の中に大阪万博も入っているのであろう。大阪万博が開催されたのは今から半世紀以上前である。その時点からみれば、今が近未来である。当時は人類が英知を結集して素晴らしい科学技術を創造し、それらに下支えされた近未来都市で皆が平和で悠々と生活している姿を想像していたはずである。

しかし、残念ながら現実はそのような感じではない。大阪・関西万博においては、人類の生存が脅かされる気候変動や海洋プラスチックごみ対策、食料の安定供給、感染症対策など、全世界が直面するさまざまな問題・社会課題に向き合うべきであると叫ばれ、「いのち」を守る、救うことに焦点を当てた『Saving Lives (いのちを救う)』がサブテーマとされている。人類は今、宇宙旅行の実現や新しい各種移動手段の実現に向けた技術開発もさることながら、いかに地球環境を守り、人類を含めた生物の生態系を守っていけるのか、そしてそのために世界全体で英知を結集できるのかということが問われているように思える。



以上
(令和6年9月18日脱稿)

14 その正面頂上部には「未来」を象徴する「黄金の顔」、正面の中央部には「現在」を象徴する「太陽の顔」が表現されている。